

特定転写領域をターゲットとしたがん治療

創薬・製剤

主たる提供特許	出願者	国立大学法人長崎大学
	題名	がん遺伝子の転写調節領域
	番号	PCT/JP2018/023028

c-Mycの過剰活性化のみを抑制する転写調整領域を特定した。

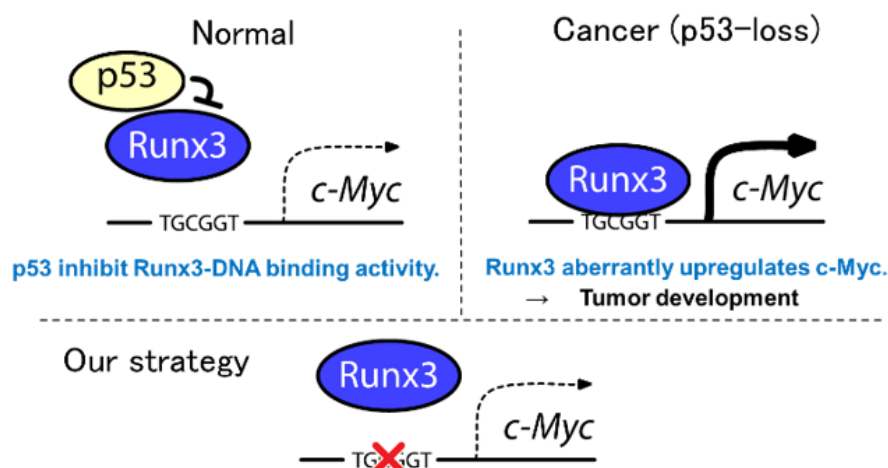
技術概要

発明の背景

・がん抑制遺伝子p53の機能低下は、c-Mycの過剰活性化を誘導し、がん化につながると考えられている。そのためp53やc-Mycは抗がん剤のターゲットになると考えられていたが、それらは生物必須の因子でもあり、従来の方法では開発が難しかった。

発明概要

- ・p53の機能低下が起きると、Runx3がc-Mycの過剰発現を誘導する。
- ・Runx3が結合するc-Mycの転写領域を特定した。
- ・この配列は極めて短く、かつ1点変異でもc-Mycの過剰発現を大きく抑える。



Inhibiting the oncogenic conjunction of c-Myc promoter and Runx3

- ・特定配列をキャップするポリイミドは、肺がんモデルで強い抗がん効果を示す。

応用分野

実用化例

p53の機能低下によるがん化、がん悪性化に対する治療薬・治療方法

実用化に向けた課題

詳細な生理活性及び安全性試験、将来的には臨床試験が必要。

企業へのメッセージ

- ・遺伝子治療、低分子あるいは中分子医薬のターゲットになりえます。
- ・共同研究先企業を探しています。